

# 次に繋がる試合に

## 陸上部 インターハイに2名が出場

先月の30日から今月の2日まで開催された大分県高校総体で、陸上・体操・水泳・弓道の4部が上位大会への進出を決めた。そこで、県総体の感想を、出場した各部の主将に聞いた。また、上位大会へ出場を決めた部には、次大会への抱負を聞いた。



最後の最後まで走り抜く(陸上)

陸上部は、男子総合優勝、女子フィールド競技で優勝した。男子主将の富永貴弘さん(三十四)と女子主将の小田麻由さん(三十一)に話をうかがった。

県総体の感想を富永さんは「チーム全員で頑張った結果、優勝することができて嬉しい」と想いを語った。小田さんは「次の大会に繋がる試合になりよかった」と話した。

部活動で得たことについて富永さんは「冷静さを持って取り組む姿勢」と話してくれた。小田さんは「自分の目標を達成するためにやるべきことを学んだ」と強く語る。

(記事・松下 秀之)

# 佐伯鶴城新聞



第31号  
編集所 立城校部  
編分 鶴城学部  
大佐 伯等  
高野 新  
編集責任者 香春菜  
小春  
香藤 小春  
香藤 小春

## 辛さを糧にせよ

### 水泳 全員がベストを尽くす

県総体で総合3位の結果を出した水泳部。主将の清水涼さん(三十一)に県総体での試合の感想と九州大会での目標をうかがった。

県総体の感想は「総合3



トップで泳ぎ切る渡辺一平さん (水泳)

位を獲得することができ、嬉しい。しかし、優勝できなかった悔しい」と話してくれた。さらに「一人ひとりが自分のベストを尽くし、インターハイなどの上位大会に出場できるように頑張りたい」と九州大会での目標を熱く語った。

後輩へ「どんなに辛くても、それを糧にして頑張ってほしい」という言葉を贈ってくれた。

(記事・松下 秀之)

## 「良い試合が出来た」

### テニス 後輩に思いを託す

女子テニスは、個人戦で首藤・西田ペアがベスト16位という記録を残した。主将の首藤万輝さん(三十一)は「辛いこともあったが、仲間と楽しくテニスをする事ができた。顧問には、自分から行動する大切さを学んだ」と話す。後輩には「新人戦で今までの結果を超えて欲しい」とメッセージを残した。

男子は個人で3回戦突破したものの、惜敗した。主将の清水大地さん(三十一)は「良い試合が出来た。悔いを残すことなく、試合を楽しめた」と語る。また「後輩には1年後の総体で、もっと上を目指してほしい」と話した。

(記事・工藤 小春)



狙いを定めて振りぬく(テニス)

## 綺麗な演技を

### 体操 総体の思いをつなぐ

体操部の主将である小野雄大さん(二十一)は多くの種目で3位入賞を果たしている。当日を振り返って「どの種目も準優勝が多く、細かい仕上げが出来ていなかったのが悔しい」と話す。また、上位大会出場に向けて「県総体よりも綺麗な演技を目指し、引退までに個人での総合優勝を果たしたい」と話してくれた。

(記事・工藤 小春)

## 努力したので悔いはない

### バレー 自分たちの成長を実感



想いを背負ってアタック(バレー)

女子バレーはベスト8という好成績を残している。主将の岩根朝香さん(三十一)は「2回戦までは自分たちのバレーが出来た

が、大商戦では思うようにいかなかった」と話す。これまでに振り返って「高校は中学以上に初めての経験が多かった。大会で



平常心で射る(弓道)

女子個人3位、男女団体ベスト16といった成績を残した弓道部。主将の福田将大さん(三十一)は「弓と矢を鉛筆と消しゴムに持ち替え、頭を勉強に切り換えたい。まだ部活動が続いている肥川千優さん(同)は、九州大会に行くからは、全国大会まで進んでほしい」と話す。

(記事・野村 香菜)

## 個人3位

### 女子個人3位

の悔しい気持ちはあるが、皆で頑張ってきたことに悔いはない」と話してくれた。男子は1回戦で、前回県3位の大分南に1セット獲得ものの、惜しくも敗れた。主将の浜野太郎さん(三十一)は「バレーを始めた頃は県でも下の位だったが、最後は自分たちが強くなったことを実感でき、とても嬉しかった」と語る。また2年生には「残りの1年間はあつという間。日々の練習を無駄にせず、最後に悔いの残らないようにしてほしい」と話す。

(記事・工藤 小春)